

JCNA通信 35 号に寄せて

会長 清水 裕子

2023 年も終わろうとしています、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

2015 年 5 月 24 日に教皇フランシスコによって発表された社会回勅『ラウダート・シーとともに暮らす家を大切に』（日本司教団訳）は、社会に生きる人間が直面するさまざまな問題を取り上げ、教会の信仰と教義に照らしながら、それらの問題をどうとらえるべきか、また問題の解決に向かってどのように取り組むべきかを示しました。また、本年 10 月には世界代表司教会議（シノドス）第 16 回通常総会が「ともに歩む教会のため—交わり、参加、そして宣教」をテーマにして第一会期が終了しました。10 月 27 日の『神の民への手紙』では、聖霊が今日の教会に伝えようとしていることを「識別」しようと模索したことが記されています。霊によって生きる中で「識別」することの重要性について深く思いを致すところです。（参考：カトリック中央協議会 web）

6 月に第 8 代会長の役割を預かり、臨時総会や各支部の方々との交流から、ポストパンデミック、様々な紛争の時代にあつて、この会への皆様からの附託を鑑み、本会がどのような宣教的働きを行うことができるかを考えさせられた半年でした。本部では、新たな陣容のもと、本会のホームページを更新し、国際に関する情報発信のタグを開設しました。Web からの入会手続きの開設、オンライン会議推進、支部の垣根を超えた交流、また、ポストパンデミックの証として、2024 年には札幌支部が全国大会の準備を進めています。この会は、本務勤務の傍ら、宣教的な働きを担う看護師・医療関係者の集いです。多忙な中でも霊の絆によってつながることが本会の豊かな財産です。

◆聖句への招き

（2023 年度 8 月 29 日開催の本部・支部長収集の臨時総会にて）

本部顧問司祭 パウロ暮林 響

ルカ福音書 第 10 章 29 節～35 節」の良きサマリア人の朗読が行われ、次のように説明された。

「2023 年度 世界病者の日 教皇メッセージ」の「この人を介抱してください（ルカ 10 章 35 節）シノドスの精神にかなう癒しの実践としてのあわれみの心」を示され、以下の講話につながります。

2023 年病者の日の教皇メッセージのテーマとなる「シノドスの精神にかなう癒し」とあるが、シノドスの「シン」の意味は身近な言葉では、シンフォニー、シンクロナイズド、動きをそろえる、相手と時間を同じにするという意味。医療の現場においては、シナジー、シンパシーと使われ、ともに一緒につくりあげる、そこに相乗効果がある、というような意味ととらえる。シノドスの「ホドス」には、2 つの意味があり、「ホドス」と呼ばれる意味は道、「ホドス」の意味は家の敷居という意味で、同じ道を歩んでいくのか、どちらにしても、一緒にいて歩むということを教皇様が一人で決めるのではなく、司教たちを集めて現場の声を聴く。シノドスは 20 世紀後半に始まった、司教たちが集まって話し合われる場を表す。そのシノドスの歩みの中に私たちは居て、私たちのみならず、一緒に歩んでいる人たちを思い、その人たちの抱えている現実に、どうこの会議が答えていけるのか考えていこうというメッセージであります。

講話の終わりに、2023 年第 31 回、世界病者の日の「教皇メッセージ」序文が紹介されました。

「一緒に歩んでいけば、体調を崩したり、疲れや想定外のことで動けなくなったりする人がいるのは当たり前のことです。そういうときにこそ、わたしたちは自分の歩みを確認できます。つまり、本当に一緒に歩んでいるのか、それとも同じ道にはいても、それぞれ、自己の利益を優先し、他の人には「自分でどうにか切り抜けて」もらって、とわが道を行っていないかということです。ですから、このシノドスの旅の真っ最中のこの第 31 回世界病者の日に、皆さんによく考えてみてほしいのは、まさに虚弱や病を知ること、近しさ、あわれみ、優しさという神の流儀をもつとともに歩むことを学べるのだ、ということです。（～中略～）病者は神の民の中心であり、神の民は、人類の預言彼らとともに前進するのです。一人ひとりに尊い価値があり、誰も切り捨ててはならないという預言です。」

♣本部新役員となられた副会長 Sr.石岡ヒロ子様、広報担当となられた織井優貴子様に自己紹介をいただきました。

◎新副会長に任命されました Sr. 石岡ヒロ子

2023 年度第 68 回全国総会において、清水会長の推薦により副会長の承認をいただき、着任させていただきました、Sr.石岡です。

1948 年北海道で生まれ、助産婦学校卒業の翌年、聖フランシスコ病院修道女会に迎えられ、20 年間、姫路聖マリア病院で勤務しました。その後、1997 年から現在まで、長崎の聖フランシスコ病院に勤務しております。JCNA 全国大会には、1996 年の第 38 回姫路大会、第 42 回長崎大会、同じく長崎での日本カトリック医療団体協議会主催の合同全国大会の第 1 回、第 3 回(JCNA 全国大会第 51 回大会、第 61 回大会)に支部の仲間達のお陰で開催に関わらせていただきました。

各支部主催の全国大会は、それぞれ趣向をこらしており、有意義な楽しい大会に数多く参加させていただきました。感謝のみです。勤務先の 65 歳定年を前に、スピリチュアル・パストラルケア研修を受け、ここ 10 年間パストラルケアに関わっております。旅立ちに関わらせて頂く多くの方々から、学ぶ日々です。力不足を感じる事の多い中で、生涯、学びつつ、生きることへの感謝の日々です。

◎新しい部門となった広報担当に任命されました 織井優貴子氏

このたび、JCNA 本部の広報担当のお役目をいただきました織井優貴子と申します。

JCNA の入会は、1996 年(平成 8 年)10 月に仙台支部に入会いたしました。仙台支部では、皆さんの支えもあり、副支部長、支部長のお役目をいただき、2003 年(平成 15 年)いのちの声を聴く～こころのこもったケアに努めよう～をテーマとして全国大会を開催することができました。仙台支部は、オタワ愛徳修道会の支えもあり、少人数ではありましたが、折に触れ奉仕活動を行うなど、共に支え合って活動していたことを記憶しております。

その後東京に異動し、東京支部に所属し、清水裕子会長とお会いいたしました。2005 年、香港等で行われたアジア地域会議にも参加することができ、アジアのカトリック看護者としての役割を考える良い機会となりました。

9 年前に横須賀に勤務していたことから、現在は横浜支部に所属しております。ただ、まだ皆さんにお会いすることができておらず申し訳なく思っております。突然の腰痛で、一時は杖が必要な時期もありました。支部の皆様には、いつも温かくお声かけいただき大変感謝いたしております。

この度は、様々な出会いから、お役目をいただいたものと認識しております。人との出会いは一期一会、きつとどこかで繋がっている、いつもそのように思っております。年齢も重ねてまいりましたので、現在の IT を駆使しながらどのような活動ができるか未知数でございますが、どうぞよろしく願いいたします。

★続いて《Sr.石岡ヒロ子 ご推薦図書》 皆さん、活字からも神様を思いましょう。

書籍名 ヘンリ J.M.ナーウエン著、‘Nouwen Henri J. M., Here and now : living in the spirit’ ; 太田和功一訳「いま、ここに生きる・生活の中の霊性」、1997 年初版(2014 年 13 刷)、The Crossroad Publishing, New York, c1994/ 発行所あめんどう、東京。

私達は、皆、愛である神から創られ、活かされている神の子どもである。

私達、皆を、ご自分のみもとに招いておられる方に向かっている。日々、そして、やがて、我が家である、神の愛の内に憩う死に迎えられる時まで、この真理を見だし、生きることができるよう、ナーウエン自身の個人的体験と、思い巡らすことにより、洞察が深められるよう、優しく語られている。光である神に向かって共に旅する私達一人一人がその旅路を思い巡らすことによって、互いがつながっていることを見出し、励まし合うことができるようになる。

「誕生祝い」

誕生日は、あなたが生まれたことを感謝し、ともにいてくれて有難うという意を伝え祝う日である。

誕生日を祝うことは、何ができるか、できることの有り無しに関わりなく、命のめぐみを再確認し合う日である。

「いま ここに」

私達は、こうすべきであったと過去を悔い、悩み、明日に、もしも、との不安や心配に捕らえられ、思いを占領されてしまうことがあると、「いま ここに」は、生きられないし、自然の美しさや友の喜ぶ声も聞こえず、神の愛を見て、聴くこと

からも遠ざかる。

「いまここに」生きることは、決して簡単なことではない。神の子どもである事実気づくために祈り、内なる部屋にとどまるために訓練が必要である。

愛が語りかける声に耳を傾ける効果的方法として、一言、二言をゆっくり、短い祈りとして繰り返してみるとよい。心が、右往左往するのは自然のことである。内なる部屋の真ん中にローソクの火のように、その祈りの言葉を置き、その言葉に何度も、何度も、何度も、立ち返ることで「いまここに」生きることを味わうことができる。

「選び取る」

同じようにできごとを体験したときに、恨みがましくなる人と、感謝の心を持つ人がいる。それぞれの人で内面や心の中の選択が異なる。恨みを引き出すか、喜びを引き出すか、それぞれの人に選択の自由がある。

「赦すこと」

「私達に課せられている最大の霊的な課題は、親、夫、妻、子ども、教師、同僚、友人から受ける、限られた、条件付きの、そして、移ろいやすい愛は、神のつぎることのない、無条件かつ永遠の愛を反映したものであることを、時間をかけつつ見いだすことである。」

私達の心の痛みの多くは、充分愛されなかったという経験からくる。(p.110)

父母を捨てるというイエスの言葉を文字通り、「捨てる」と考えてきた。自分の感情面の生活に、両親、兄弟との関係が、いかに影響を受けているかに気づき始めた。90歳を過ぎている父に対して、自分が望むような心使いをしてくれる人になってほしいと、60歳を過ぎ未だに願い、また父母の期待に応えようとしている自分のことに気づいた。

人生の初期の案内役であった人々との絆の固さがある。

「イエスは、私達を自由にしたい。」(p.170)

離れるための大切なことは、赦すこと、感謝すること。

私達の持つ愛は、全て不完全で限界がある。父親、母親が自分にとって、理想的な両親ではなかったとしても、兄弟姉妹が、自分をいつも受け入れては否としても、赦すことが必要である。

私達は皆、不完全な愛をもつのみである。相手も自分も、限界のある者同士である。赦すことによって感謝が生まれる。命をいただき、生きるために、助けを受けている。近くに居て、知っているが故に相手の弱さにとらわれて、目は曇り、感謝すべきことが見えない。

ある人は、親は、自分に対してしつけがあまかったと言う、ある人は厳しすぎたと言う。親も子も完全ではない。

親を赦し、また親は子どもから赦される必要がある。父であること、母であること、また、子どもであること、全ては神からきているという真理を、深くさるように私たちは招かれている。

「子どもは贈り物」

自分の子どもを自分たちが創造したものではなく、所有しているのではない。このことは、良き知らせであり、福音である。だから、子どもの問題が全て自分にあると責める必要もなく、また、子どもの成功を自分の力と誇るべきでもない。

すべてが、神の導きのもとにある。十字架も死も愛の神の御手の中にある。愛の神の臨在を離れては、なにごとも起きない。イエスの味あわれた苦しみは、暗闇の力によってもたらされたにも関わらず、その苦難と死は、栄光へと至る道とイエスは語る。

私たちが死にゆくとき、そしてついに死が訪れたときは、我が家に帰れることを、私達を「愛する子」と呼んで下さる方と一つに結ばれることを喜ぶ。(p.216)すべてが神の導きのもとにある。神の愛の御手の中にある。十字架も死も。愛の神の臨在を離れては、なにごとも起きない。



JCNA2023 年度臨時全国総会をオンラインで開催しました。

開催日時 : 2023 年 8 月 29 日(火) 18 時~20 時 15 分(オンラインにて(支部長中心のメーリングリストを作成)

出席者 : 支部長

札幌支部-佐藤昇子氏、仙台支部-小関睦氏、東京支部-千田宏子氏、横浜支部-井坂玲子氏、
名古屋支部-鈴木光恵氏、京都支部-西川加之子氏、大阪支部-井上理恵子氏、高松支部-河上眞理氏、
広島支部-阿川昌子氏、福岡支部-牧山幸二氏、長崎支部-Sr.大山久美子氏、副支部長-濱口龍氏、
大分支部-阿南幸子氏、鹿児島支部-Sr.澤ヤエ子氏
・顧問司祭:本部顧問司祭-暮林響師、長崎支部-鶴巻健二師
・本部役員:会長-清水裕子氏、副会長-Sr.石岡ヒロ子氏、財務-石原貴子氏、広報-織井優貴子氏、
書記-藤井智恵美

◎第 8 代 JCNA 会長 清水裕子氏の下、日本カトリック看護協会規約第 26 条に基づく開催と説明されました。

進行について、会長からの指名で議長を本部役員、織井氏、書記を本部藤井が担い、総会が成立する
議決権のある出席者は 20 名で会が成立することを確認しました。

◆会長挨拶、「JCNA 会員の祈り」を出席者で唱和し、その後本部顧問司祭の聖句への招き(前述 1 ページ目に要約を掲載しています)の後、第 8 期会長の方針を清水会長が示し、会議は開始されました。

【議題・審議事項】について、

第 8 期活動方針を提示し、第 68 回全国総会(6 月 2・3 日オンライン会議)で示されていた

2023 年度の事業計画の修正案が示され、その修正を受けて修正された予算案、会の組織の変更による規約の改正の審議が行われました。

新事業には、新会員の入会についての新たな方法についてや、2024 年度以降の全国大会、また 2027 年に迎える JCNA 創立 70 周年の記念行事等、また研修会開催のための全国ブロック体制の設置や、それにつながる研修会としての臨床パストラル教育研究会との連携、カトリック看護大学からの評議員として招聘する内容等、新たな新事業の内容が提示され、審議されました。

◆第 8 期会長の活動方針

1. カトリック医療団体としてのミッションを明確化する。

①本会は創立 66 年となり、会として充実した実績を有するため、そのレガシーを後世に遺すことは、後に続くミッションを力づけるものとなる。

②日本カトリック司教協議会の公認団体としての組織について、66 年の経過を経た状態を自己点検し、適切に是正し、公認団体としての基準を整備する。国際機関との連結、国内司教区との連携、公認の基準を満たす人事、財政の健全化を図る。

2. 本会の進展を図る

①社会的評価に耐えうる広報活動、支部の分かち合い、会員のすそ野拡大を図り、カトリック看護分野における宣教的役割を推進する。

②少子高齢社会における人口構成を背景とし、本会員の構成特徴から、高齢会員の役割と尊重、地域間格差の是正、オンラインや Web 活用と対面分かちあいの尊重、次世代育成など、創立 100 年を見据えた組織力の基礎を構築する。

会の組織・及び本部役員についてこれを整理し、会長・副会長の 1 名は変更はなく、従来の書記は広報に含まれ、会計は財務とする部門を設置するという変更がなされ承認されました。この件は規約改正にも挙げられています。

※ 修正事業計画 (時系列に掲載)

部門	事業
事務局	・第 68 回全国総会(6 月 2-3 日、広島教区鞆町教会)、議事録全国配信 ・2023 年度臨時総会(8 月 29 日) ・総会誌編纂(定期総会冊子完了) ・本部事務局移動⇒個人情報保護法の観点から会長自宅住所は公開しないため規約を改正する。

	<p>〒796-0088 愛媛県八幡浜市 1128-7 カトリック八幡浜教会内、日本カトリック看護協会本部) FAX0894-26-00095、E-mail: jcna_secretariat@googlegroups.com)</p> <p>⇒Mail はグループメールである。受信者:本部—清水・織井・石原・暮林(敬称略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本部管理備品の移転: 山口会長宅から清水会長宅へ移動終了。 ・本部役員会: (オンラインオンタイム) 第1回 6月16日(金)、第4回 8月4日(金) (メール会議) 第1回 6月17-26日、第2回メール会議 7月14~17日、第3回 7月21~27日 ・新旧役員引継ぎ: オンラインによる電子ファイルのやり取りにて実施済。 ・支部からの会員報告: 会費前受 (支部事業計画・予算)(〆切1月末) ・入会システム構築: (インターネット入会開始、7月1日開設、8月2日稼働) ・支部アンケート実施 ・さくらインターネット KK 登録情報変更
大会	<ul style="list-style-type: none"> ・第62回大会: 札幌支部、第63回大会: 未定 ・ブロック制(あるいは管区)による開催の検討 <p>⇒支部研修会の開催は規約上の事業となっているが、小規模支部では開催は困難と考える。今後、支部をブロック化し、大会や研修会の開催単位を再編する方向である。</p>
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・JCNA 通信 34号、35号発行⇒(2023年1月に33号、8月に34号を発行。35号は秋発行予定。) ・カトリックハンドブック変更事項登録(〆切7月25日) ・カトリック新聞名刺広告(8月、12月、病者の日) ・ホームページ更新・サイトマップ整備 <p>⇒HPに「看護とカトリック」というタグがあるが、その部分を国際部門として CICIAMS の情報を掲載したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Twitter 開設検討 ・「70周年に向けて」のワーキングを検討 <p>⇒レガシーの形成として、先輩方に JCNA の知見を集積するなど 70周年記念行事の内容を検討したい。</p>
渉外	<ul style="list-style-type: none"> ・CICIAMS 本部へ日本事務局および役員登録 ⇒ 6月26日に役員変更の登録完了。 ・CICIAMS Regional Conference <p>⇒2024年8月6日、ケニアのナイロビでの世界大会で世界総会が開催され、世界・アジア地区、国連など代表者の選挙が実施されるため会長が出席する。続いて7、8、9日に行われるアフリカ大会への発表依頼があり、札幌支部顧問司祭であるケン・スレイマン神父が 2022年にCICIAMS 世界総会の顧問に就任されたので、相談しつつ進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本カトリック医療団体協議会(3団体)の運営委員会が予定⇒連絡待ちである。(2月17日開催予定) ・交流レター(他団体へのクリスマスカード、年賀状)は継続する。 ・カトリック大学看護学部評議員検討 ⇒方針・内容等、今後審議する。
研修	<ul style="list-style-type: none"> ・本部主催黙想会 ・支部主催(合同)研修会 ・「会員手帳」検討
次世代育成	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学校に花を贈る⇒この事業は支部に移行。

○変更された事業の内容につながる詳細は、ホームページに掲載しています。

ホームページも見やすく、情報をわかりやすくお伝えしようと試みています。アクセスしてみてください。

○**研修会のブロック体制**については以下に示したブロックの体制を考えています。

ブロック案 *支部は教区単位であるが、那覇に支部はなく、さいたまは東京に合流している。

<九州管区>

九州ブロック: 福岡支部(福岡、熊本、佐賀)、長崎支部、大分支部(大分、宮崎)、鹿児島支部、那覇教区
⇒2ブロックとする案もある。

<大阪管区> 2023年8月 大阪・高松支部合併となりました。

近畿ブロック: 大阪支部(大阪、兵庫、和歌山)、京都支部(京都、滋賀、奈良、三重)、

四国ブロック: 広島支部(広島、山口、岡山、鳥取、島根)、高松支部(香川、愛媛、徳島、高知)

<東京管区>

中部ブロック:名古屋支部(愛知、岐阜、富山、石川、福井)、横浜支部(神奈川、静岡、山梨、長野)、
新潟支部支部(新潟、山形、秋田)、
関東ブロック:東京支部(東京、千葉)、さいたま教区(埼玉、群馬、栃木)
東北北海道ブロック:仙台支部(宮城、福島、岩手、青森)、札幌支部(北海道)

❖次に修正した予算を掲載します。事業計画と見比べて、今後の会の運営をご覧ください。

※修正された予算

収入の部 (単位:円)			
科目	修正予算	2022年度から 修正予算への差 異(△減)	摘要
会費収入	入会者会費	120,000	2023年度30名の入会を目指す
	2023年度会費	738,000	会員184名+準会員1名(2023/3/31現在)
	過年度会費	0	
事業収入	バザー収益	0	
雑収入	寄付金	0	
	過払い金	0	
	受取利息	800	ゆうちょ銀行
	当期収入計(A)	858,800	
	前期繰越収支差額	7,829,257	
	収入合計(B)	8,688,057	
支出の部 (単位:円)			
科目	修正予算	2022年度から 修正予算への差 異(△減)	摘要
事業費	全国大会費	0	△30,000 2024年には大会支援経費計上予定
	全国総会費	300,000	290,000 会場/宿泊/総会誌費⇒2023年6月:329,266円
	研修会費	30,000	30,000 本部主催黙想会研修会等
	広告費	80,000	HP関連費、新聞広告費(3回分)⇒カト新聞名刺広告(夏/冬)36,300,病者の日広告30,800, Web(ドメイン料4,253+550),サーバー料5,238+550)計10,576
	CICIAMS参加費	200,000	△200,000 理事会参加予定⇒2年毎実施のため半額を毎年計上
	日本カトリック医療団体協議会参加費	50,000	50000 対面(1回), 他オンライン
管理費	通信運搬費	50,000	20,000 送料、手数料、zoom料⇒本部ZOOM契約見送り
	会議費	0	10,000 対面会議使用料見送り
	旅費交通費	200,000	300,000 本部役員会:対面は1回、他オンライン
	消耗品費	0	△10,000 事務用品見送り
	事務局費	0	保存資料電子データ化手数料見送り
	印刷費	0	△40000 通信電子化・会員手帳作成費見送り
	CICIAMS年会費	65,000	年420\$
	日本カトリック中央協議会公認団体	10,000	1年分
	日本カトリック医療団体協議会年会費	20,000	1年分(事務局聖マリア病院)
	予備費	0	
	当期支出計(C)	1,005,000	
	当期収支差額(A)-(C)	-146,200	
	次期繰越収支差額(B)-(C)	7,683,057	

「ナースの祈り」を唱和し、2023年度全国臨時総会は閉会となりました。

支部活動のご紹介

◆JCNA 長崎支部 救護活動

報告者 Sr.大山久美子支部長

1. 長崎支部救護活動「教区主催召命フェスティバル」にて

2023年7月25日火曜日、雲仙メモリアルホールにて、「召命フェスティバル」という子供たち向けの大黙想会が長崎大司教区教区召命委員会の主催で行われ、JCNA 長崎支部が救護活動を行いました。

参加者は、小・中学生と大人を含め、合計約130名でした。今回のフェスティバルは長崎全地区を対象としていました。長崎教区は、長崎地区、佐世保地区、北松地区、五島地区とありますが、今回は佐世保・五島地区は不参加でした。救護対象となる対象者はありませんでした。



図 1 召命フェスティバルに参加した小中学生 図 2 救護活動に向かう JCNA 会員たち

2. 長崎支部救護活動「教区主催子どもスポーツ大会」にて

2023 年 8 月 3 日木曜日、カトリック長崎大司教区長崎地区司祭団の主催による、長崎地区子どもスポーツ大会が行われ、JCNA は救護活動を行いました。種目は、ドッジビーでした。ドッチビーとは、ドッチビーは丸い形をした薄めの軽い素材でできたディスクです。小中学生の子供を中心に大会まで開かれ、盛り上がりを見せている新しい遊具です。ドッチビーという言葉はフリスビー+ドッジボールといわれています。使い方もフリスビーとほぼ同じで、床や地面と水平に投げてプレイします。その遊び方の基本は、今まであったスポーツのルールを採用しています。

参加者は、小・中学生 250 名、大人 150 名、合計約 400 名でした。救護対象者は、鼻出血 1 名でした。



図 3/4 長崎地区だけの子供スポーツ、ドッジビー大会は子供だけで 250 名が参加

他の救護活動は、8 月 9 日の長崎教区主催、浦上教会での平和祈願ミサ及び平和公園までの行列は、約 1000 名の参加者を予定しており、カトリック医師 4 名 カトリック看護師 10 数名程度の救護体制を組んでいましたが、台風の為中止となりました。教区救護活動では、カトリック医師会と常に連携しています。

今回の救護活動は、9 月 24 日日曜日、教区主催の十六聖人殉教記念ミサの救護を予定しています。

3. 長崎支部 2023 年度定例会を開催

11 月 11 日 JCNA 長崎支部第 4 回定例会が ZOOM にて開催されました。清水裕子会長が ZOOM にて参加され、はじめに会長から、フランシスコ教皇はカトリックナースに向け、シノドスのテーマに沿ってミーティングを行い、共に歩んでほしいと伝えられていることを紹介しました。CICIAMS のガイドラインではカトリックナースとしてのあり方が示されており、すべての会員が理解する必要があると考えているが、日本の場合、カトリック信者でないメンバーも入会しているので、難しいと感じられるかもしれませんが、会員として理解していただくことが必要と、今後の JCNA の課題となる内容を共有されました。

研修内容は、清水会長による「カトリックナースの心的特性—スピリチュアルニーズへの気づき」として、以下に挙げた 8 項目についてお話しがありました。

- ・現場を振り返り、不全感を感じたできごとを思い出し、なぜスピリチュアルケア論の学習が必要かを考えました。
- ・「スピリチュアル」とは何かを、語源、日本的霊性、定義、医療におけるスピリチュアルの枠組みから考えました。
- ・看護研究者の先行研究から、日本人の高齢者のスピリチュアルの次元を理解しました。
- ・スピリチュアルニーズ(霊的欲求)、スピリチュアルペイン(霊的苦痛)、スピリチュアルケア(霊的かわり)の臨床的特徴を学びました。

次に演習を行いました。「あなたのスピリチュアルケニーズは」では、最新の未発表研究成果から、参加者の現在のスピリチュアルニーズを得点に置き換えて、理解しました。

お話を伺った後の分かち合いでは、良い学びができた、他の人にも伝えたい、パストラルケアを学びたいなどがあり、感謝のうちに閉会しました。

(書記所感) 次回の通信では、このお話しの内容を掲載して、カトリックナースとしてのあり方を考えたいと期待します。

2023年8月20日

JCNA 広島支部救護活動 報告者 阿川昌子支部長

1. 下関市民平和ウォークの救護(CICIAMS, October 英語版に掲載)

2023年8月5日土曜日、十フィート映画を上映する「下関市民の会」主催の「第38回平和ウォーク」において、JCNA 広島支部による救護活動を行いました。「第38回平和ウォーク」は、毎年、平和旬間の8月第1土曜日に開催しています。ウォークは、下関駅から市役所の非核平和宣言塔までの約2kmの道のりを『核の廃絶！核兵器禁止条約に参加を！』と訴えながら40名の方々が歩きました。市役所の非核宣言塔に到着し、原爆で亡くなられた方々の為に、1分間の黙祷を捧げ、市民がそれぞれ平和への思いを訴えました。夕方4時から行進とはいえ、高齢者の参加が多く熱中症を、最も危惧しましたので、行進前に各自に熱中症予防の飴や飲み物を配布し、行進中も看護師が、参加者の顔色、歩行状態などを常に観察し、体調不良の方々の為に救護車も準備しました。行進中も積極的に飲水し、互いに声をかけ合い、お陰で誰一人として体調不良となる方もなく、世界の平和を願い、分かち合うことができ、散会しました。



下関市民の会の平和ウォーク①



同②

大会関係のお知らせ

1. 2024年度全国総会は、2024年5月頃、オンラインで開催予定。

2. 第62回JCNA全国大会開催(対面方式)、札幌で開催。札幌支部が大会の運営を担ってくださいます。

2024年8月24日(土)～25日(日)、会場は、札幌市北十一条教会および天使大学です。

来年の予定にぜひ加えてください。

3. CICIAMSについては、修正事業計画の「涉外」に挙げていますが、

札幌支部の顧問司祭ケン・スレイマン神父様が2022年の世界総会ペンシルベニア会議においてCICIAMS世界総会の顧問司祭に就任されました。CICIAMS世界総会・アフリカ地域会議は、2024年8月6日～9日、アフリカのケニアのナイロビで開催されます。

会長の出席が決まっていますが、参加されるご希望があれば、本部にご連絡ください。

ホームページにはCICIAMSからのメッセージやニュースレターなどを載せています。

※カトリックを囲む世界情勢の動向を詳しく聴く機会ともなります。興味のある方のご参加を期待いたします。

編集後記

秋があっという間に過ぎ、天候が落ち着かず、ウクライナ、パレスチナはどんどん平和から遠ざかっています。

すぐそこに待降節が始まります。

この日々の中イエス様がともにいてくださることを強く意識し、祈りによって小さなともしびを大きな光へと変えられる平和を願いましょう。

1年のおめぐみを感謝しつつ、よいクリスマス、よいお年をお迎えください。

本部書記 藤井智恵美



発行日	2023年11月30日(木曜日)
発行責任者	清水 裕子
編集	日本カトリック看護協会本部
創刊年	1957(昭和32)年